

令和5年8月8日（火）

第26回 愛教研小・中学校道德教育夏期研修会

基調提案

よりよく生きるための基盤となる道德性を養う道德教育の研究
— 学びがいのある道德科を要として —

愛媛県教育研究協議会道德委員会 研究部

【愛教研道徳委員会の願い】

各校が目指す道徳教育目標の達成

本基調提案の研究主題

「よりよく生きるための基盤となる
道徳性を養う道徳教育の研究」
— 学びがいのある道徳科を要として —

各校の実態

【主題設定の理由】

- ① 社会情勢
- ② 学習指導要領に書かれていること
- ③ その上で私たちが大切にしたいこと

【主題設定の理由 - 現代の社会情勢 - 】

- 多様な価値観や文化が複雑かつ密接に絡み合う
- 他者と協働しながら考える
- 自らよりよく課題を解決する力が不可欠
- 多面的・多角的に考え判断する力の必要性
- 心構えや身構えを持って行動する子どもの育成

【主題設定の理由 - 学習指導要領 -】

道徳教育と道徳科 (学習指導要領第1章 総則の第1の2の(2)の3段目より)

「よりよく生きるための基盤となる**道徳性を養うこと**」



「**道徳科を道徳教育の要として実効性のあるものとなる**
には、**道徳科の特質を踏まえた授業を地道に実践**」

【主題設定の理由 - 学習指導要領 -】

【要となる道徳科 学習指導要領「第3章 特別の教科道徳」の「第1目標」より】

道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を（広い視野から）多面的・多角的に考え、自己（人間として）の生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。 ※（ ）は中学校

（そのためには）

- 補ったり、深めたり、発展させ統合させたりすること
- 計画的・発展的に道徳科の指導を進めていくこと

【主題設定の理由 - 私たちが大切にしたいこと -】

(要となる道徳科では)

毎時間の地道な積み上げ（日々の生活における道徳教育）の下、**「学びがいのある授業」**を意識することで、道徳的価値の自覚を深めていくこと

【道徳的価値の自覚を深める】

「人間としてよりよく生きる上で大切な**道徳的価値を、自分のこととして感じたり、考えたりすること**」と一般的に解説されています。

私たちは、授業において道徳的価値の自覚を深めるために**「学びがいのある授業」**を次ページのように捉え、提案します。

【学びがいのある授業とは、子どもたちにとって…】

- 真剣に考えることができた
- 自分の思いや考えが素直に誠実に発言できた
- 自分の思いや考えがみんなに認められた
- 自分がもっていない価値観に出会えた
- 道徳的価値の大切さを再認識、再確認できた
- 守るべき道徳を自らが納得した

【学びがいのある授業とは】

主体的・対話的で深い学びを実現する授業

【研究主題】

よりよく生きるための基盤となる道徳性を養う道徳教育の研究
— 学びがいのある道徳科を要として —

研究の視点

- I 道徳教育の確かなマネジメントの推進と充実
- II 主体的・対話的で深い学びを実現する道徳科の充実
- III 開かれた道徳科・道徳教育の充実

【研究の視点Ⅰ 道徳教育の確かなマネジメントの推進と充実】

- (1) 校長の方針の下、道徳教育推進教師を中心として、各校の実態及び特色を生かした道徳教育推進体制の確立
- (2) 重点内容項目を意識し、各教科等との横断的な学びの実現
- (3) 指導と評価の一体化や道徳的価値の理解
→「要」の意識へ

【研究の視点Ⅰ 道德教育の確かなマネジメントの推進と充実】

各校が目指す道德教育目標

【教育活動全体の中で】

- ・教科等横断的な学び
- ・日々の道德指導による種まき

道德教育

道德科

【45/50分の授業の中で】

- ・指導と評価の一体化
- ・授業は多面的・多角的に考えさせる
- ・自身との関わりの中で、価値理解を
- ・要の意識（補充・深化・統合）

各校の道德的な課題

【研究の視点Ⅰ 道德教育の確かなマネジメントの推進と充実】

各校が目指す道德教育目標

【教育活動全体の中で】

- ・教科等横断的な学び
- ・日々の道德指導に

Check (評価)

Do (実践)

道德科

【45/50分授業】

道德教育

Action (改善)

Plan(計画)

- ・多角的に考えさせる
- ・自身との関わりの中で、価値理解を
- ・要の意識 (補充・深化・統合)

各校の道德的な課題

【研究の視点Ⅰ 道德教育の確かなマネジメントの推進と充実】

各校が目指す道德教育目標

【教育活動全体の中で】

- ・教科等横断的な学び
- ・日々の道德指導による種まき

(2) 道德教育

(3) 道德科

【45/50分の授業の中で】

- ・指導と評価の一体化
- ・授業は多面的・多角的に考えさせる
- ・自身との関わりの中で、価値理解を
- ・要の意識（補充・深化・統合）

(1) 各校の道德的な課題

【研究の視点Ⅰ 道徳教育の確かなマネジメントの推進と充実】

年 組		氏 名	曜日	（月）						（火）						（水）						（木）						（金）					
年	組	氏 名	教科	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
第1年	A	保体																															
	B	理科																															
	D	特支																															
	F	特支																															
	副担	社会																															
第2年	A	数学																															
	B	保体																															
	G	国語																															
	副担	特支																															
	副担	英語																															
第3年	A	音楽																															
	B	技術																															
	C	社会																															
	E	理科																															
	副担	特支																															

1年1組

1年2組

2年2組

2年1組

3年1組

3年2組

特別支援学級

1A
道徳

1B
道徳

2A
道徳

2B
道徳

3A
道徳

3C
道徳

【研究の視点Ⅰ 道徳教育の確かなマネジメントの推進と充実】

R5 2年部ローテーション道徳

番号	教材名	指導者
愛ある	和釘に込めた千年のいのち	A
7	六千人の命のビザ	B
8	国境なき医師団	C
11	清掃はやさしさ	D
17	五万回斬られた男・福本清三	E
21	狂言師・野村萬斎物語	F
27	海と空～檜野の人々～	G
29	風に立つライオン	H

日程	第11回		第12回		第13回		第14回		第15回		第16回		第17回		第18回	
1組	愛	A	29	H	17	E	27	G	11	D	8	C	7	B	21	F
2組	7	B	愛	A	21	F	17	E	27	G	11	D	29	H	8	C
3組	8	C	7	B	29	H	愛	A	21	F	17	E	27	G	11	D
4組	11	D	21	F	8	C	7	B	愛	A	29	H	17	E	27	G
5組	17	E	27	G	11	D	8	C	29	H	7	B	21	F	愛	A
空き	F・G・H		C・D・E		A・B・G		D・F・H		B・C・E		A・F・G		A・C・D		B・E・H	

【研究の視点 I 道德教育の確かなマネジメントの推進と充実】

①

春の遠足に関わる 内容項目

B 親切、思いやり
 友情、信頼
 相互理解、寛容 (3~6年)

C 規則の尊重
 よりよい学校生活、集団生活の充実

でも思いやりの心を持ち、相手の立場に立って親切にすること
 ても差別をすることや偏見をもつことなく、構成、公平な態度で接し、正義の実現に努め
 くの生命のつながりの中にあるかけがえのないものであることを理解し、生命を尊重

	5月	6月	7月
式	避難訓練	大洲青少年交流の家	大掃除
生活	C 生命の尊重	B相互理解、寛容 C	C 勤労、公共の精神
		ブル開き	終業式Cよりよい学校生活
		D 生命の尊重	郡水泳記録会
信頼			A希望と勇気、努力と強い意志
い打	残った仕事	全力で	へこたれんぞなー 正岡子規
	C公正、公平、社会正	A節度、	A希望と勇気、努力と強い意
たち	オーストラリアで学ん	見えた答案	折り紙の花束
、自律、	B礼儀	A正直、誠実	B親切、思いやり

②

★学校の楽しさを味わう
 → よりよい学校生活

★歓迎、交流、^{たま}望ましい人間関係
 → 親切、思いやり
 相互理解・寛容

【別葉の活用（全職員で取り組む）】

①：「全校遠足」②：「1年生を迎える会」を例に。
 全校に係る活動を別葉から抜き出し、活動のねらいと関係する内容項目を職員室に掲示している。職員はそれを見て、学年の発達段階に応じた事前・事後指導をすることを共通理解・意識している。
 このような積み重ねで、重点内容項目に関する授業を行うときに、補充・深化・統合されることを期待している。

【研究の視点 I 道徳教育の確かなマネジメントの推進と充実】

オリエンテーション

よりよい学校生活



月	道徳	学習	生活	各教	
4	スポーツの力 D 今年こそは 図書委員会 B 命のアサガオ D	入学式・始業式 C 健康診断 D 交通安全教室 D 1年生を迎える会 C B 親切・思いやり 相互理解・寛容	6年生になって A 縦割り班で仲良く B C	つないでつない で一つのお話 C 春のいぶき C D リズリズ 視点の違い	わし
5	ほんとうの ことだけど…… A それじゃ、ダメじゃん Aお かげさまで B	運動会 A B C	運動会を成功さ せよう A B C	聞いて考えを深 めよう BC	
6	ぼくのお茶体験 C 東京オリンピック 国旗にこめられた思い C ロレンゾの友達 B エイズと闘った少年 C	プール開き D 避難訓練 C D	生命創造 D	時計の時間と心 の時間 A	
7	心づかいと思いやり B カスミと携帯電話 A		有意義な夏休み A C	天地の文 C 夏のさかり C D 私たちにできる こと D 森へ D	
9	自由行動 A 手品師 A 母の仕事 C 初めてのアンカー C	運動会 A B C	楽しい修学旅行 C 運動会を成功さ せよう A B C		武 今
1	緑の闘士	避難訓練 C D	まどろみ活動を見		

が光

→(4月も)

【研究の視点Ⅰ 道德教育の確かなマネジメントの推進と充実】

- 指導内容を精選し、指導計画を充実させる中で、日常的に実行することを目指す。

【研究の視点Ⅱ 主体的・対話的で深い学びを実現する道徳科の充実のために】

- (1) 道徳的諸価値についての理解を基にする
- (2) 自己を見つめる
- (3) 物事を(広い視野から)多面的・多角的に考える
- (4) 自己の生き方(人間としての生き方)についての考えを深める
- (5) 道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる

【研究の視点Ⅱ 主体的・対話的で深い学びを実現する道徳科の充実のために】

(1) 道徳的諸価値についての理解

→ 価値理解・人間理解・他者理解（3つの理解）
を十分に深めることを基にする

【研究の視点Ⅱ 主体的・対話的で深い学びを実現する道徳科の充実のために】

(2) 自己を見つめる

→ 道徳的価値について**これまでの自分の経験を基に**
さらに考えを深めること

【研究の視点Ⅱ 主体的・対話的で深い学びを実現する道徳科の充実のために】

(3) 物事を（広い視野から）多面的・多角的に考える

→ 様々な視点から理解し主体的に学習に取り組む

【研究の視点Ⅱ 主体的・対話的で深い学びを実現する道徳科の充実のために】

- (4) 自己の生き方(人間としての生き方)についての考えを深める
→ 自分との関わりで深めたり、自身の体験や感じ方、考え方を想起したりしながら、自己の生き方(人間としての生き方)について考えを深めること

【研究の視点Ⅱ 主体的・対話的で深い学びを実現する道徳科の充実のために】

(5) 道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる

→ 道徳的判断力 …… (判断基準づくり)

道徳的心情 …… (行為への動機づくり)

道徳的実践意欲・態度 …… (心構え・身構え)

★ここから見えてくるものは、
命は命であるところのこと
国とか住んでるところだけ違う
人のためには、勇気もいる
人としての道（人としての正しさ）
ありがたうのつながり。

杉原千畝の写真

あなた
こんな事をやるなんて、
おごい。
。僕だ、たうでさない。
。勇気がない。（命令にむけない）

発行すべきか、
発行しないべきか。
この人達も、私達のように命令が
かかっている。（自分も外にいる者や人も）
私達は退去しなければならぬ
（早急な事はやらなければならない）
ハイルヒトラーに、犠牲にし
目を向けるれたくない。たくわい、ごさがな
い逃げることができない。

ユダヤの
人々の写真

早く発行してくれ。
発行してくれ。
ハイルヒトラーから
逃げられるたのび。
ありがたう。
命を助けてくれて（杉原さん）

杉原千畝の写真

杉原千畝

外務省は反対命令違反
退去命令の命の危険
ユダヤの人々とのかわり
はない
ビザを発給すれば、ドイツに
自分や家族が目をつけられ
る。自分家族の命の危険
逃げてても非難はない
列車の窓から身を乗り
出して書く
ビザを発給

☆杉原千畝さんがしたようなことを
どう思いますか。

ユダヤの人々の
写真

早く発行してくれ

発行してくれ

ハイルヒトラー

逃げろ

命を助けてくれた杉原さん

あなた

こんな事をやるなんて

可い

僕だっとうできない

勇気がない。(命令に背けない)

発行すべきか
発行しないべきか

この人達も私達のように命が
かかっている。自分も外にいるユダヤ人も

私達は退去しなければならぬ

ハイルヒトラー
目を向けるれたくない。たか

逃げろ

杉原千畝の写真



ここから見えてくるものは

命は命であるところのこと

国とか任んでいるところだけ違

人のためには勇気もいる

人としての道徳(人としての正しさ)

ありがとうのつながり。

あなた

★ここから見えてくるものは、命は命であるところだけではない。国とか住んでるところだけではない。人のためには勇気もいる。人としての道徳へ人としての正しさ。ありがとうのつながり。

今日、人
 困っている人
 ことが分
 ておれ
 行かると
 手をさしの
 正しい行
 ておれは
 のるこ
 お母さん
 すること
 のような
 思はま

今日、人の正しいやるべきことは、**困っている人を助けることが大事**だということがわかりました。「六千人の命のビザ」でいうのであれば、杉原さんがビザを発行するということです。

どの国の人でも困っているのなら、手をさしのべるという行動は、**人として正しい行動だ**と思います。学校生活であれば、困っている人の相談にのることだし、家庭生活でいえば、お母さんのご飯作りを手伝ったりすることだと考えます。

僕もそのような行動をとりたいなと思います。

り
 れに
 り
 反

【明確な指導観の確立】

- 教師の価値理解
- 児童生徒理解
- 教材研究など

【効果的で多様な指導方法の工夫】

- 自我関与が中心の学習
- 問題解決的な学習
- 体験的な学習
- 思考ツール等の活用

ねらいの確認・授業実践

【子どもの意識】

- 3つの理解
- 自己を見つめる
- 多面的・多角的に考える
(多様な価値観との出会い)
- 自己の生き方について考える
- 自分自身のよさに気付く

【評価】

- 指導と評価の一体化
- 学習状況（学びの過程）
- 道徳性に係る成長の様子

【研究の視点Ⅱ 主体的・対話的で深い学びを実現する道徳科の充実のために】

- 場の設定
- 3つの理解が促される「学びがいのある授業」
- 道徳的価値の自覚を深めること

【研究の視点Ⅲ 開かれた道徳科・道徳教育の充実】

(1) 家庭や地域社会に開く

(2) 学校間で開く

【研究の視点Ⅲ 開かれた道徳科・道徳教育の充実】

全校体制で取り組む
「道徳的行為」の習慣化

「道徳通信」の発行

【研究の視点Ⅲ 開かれた道徳科・道徳教育の充実】

- 学級・学年間、家庭や地域の人々等とのつながり
- 共通理解・相互の連携